



# すまいるん vol.56



社会福祉法人 済生会  
済生会熊本福祉センター

- 就労継続支援A型・B型 就労移行支援 済生会かがやき
- 幼保連携型 認定こども園 済生会しらふじ子ども園
- 児童発達支援センター 済生会なでしこ園
- 就労継続支援B型 生活介護 済生会グループホーム事業所
- 済生会ほほえみ 済生会熊本福祉相談支援センター
- 就労継続支援A型・B型 済生会ウイズ
- 熊本市障がい者相談支援センターさいせい
- 熊本県地域生活定着支援センター

こんにちは!!済生会熊本福祉センターです。

私達の福祉センターは、認定こども園、児童発達支援センター、地域生活定着支援センター、障がい福祉サービス事業所で構成されています。

園児・利用者・従業員・職員総勢約470名が毎日『すまいるん』で頑張っています!!

## 済生会熊本福祉センターの理念及び基本方針

**理念** 一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします。

- 基本方針**
- ・ライフステージに応じた自立を支援します。
  - ・専門性と施設機能を活かし、地域社会に貢献します。
  - ・利用者主体の福祉を実践します。

## 2020年度 済生会熊本福祉センター運営基本方針

済生会熊本福祉センター 所長 道端 由美子

2020年度の済生会熊本福祉センターのキーワードは済生会福祉のブランド力の確立を引き続き掲げ、サブテーマとして「継続性と創造性」としました。済生会中期事業計画の3年目として、取り組みが推奨されているSDGs(エスディーゼズ)を取り上げることにしました。「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念と済生会の理念には共通するものがあります。多くの企業や自治体は世の中をよくするために製品やサービスを提供しています。また、従業員が健康でいきいきと働くための取り組みや、節電やごみの削減など地球環境の保全につながる取り組みも積極的に進めています。しかし、もっと工夫できることがあるはずだということをSDGsは私たちに投げかけています。

福祉センターが地域や利用者さんのニーズに対応するためには、これからの30年、50年と組織の持続可能な開発目標には人材の確保、育成、定着していく必要があります。一緒に働く仲間を尊重し、人が集まる魅力的な組織作りを目指すことが最も優先度の高い課題です。今年度は済生会熊本福祉センターとして17年目を迎えます。昨年から開始しました福祉の専門性を地域福祉の底上げの一つとして講演会の開催を継続していきたいと考えています。

一方、利用者さんの高齢化・重度化、多様化によりケア量は増加の一途をたどっています。さらに2025年以降は、国民の医療や介護や福祉の需要が増すと予想されています。

また、働き方改革によるケア提供時間の短縮による業務の見直しが必至であります。分業化、ICT化などアイデアを出し合って効率化を図ることが期待されています。今年度も組織の継続をするために、1人ひとりが創造性を持って働きやすい職場作りを目指したいと思います。

## 済生会熊本福祉センター 2020年度運営基本方針

**キーワード** 済生会ブランド力の確立  
継続性と創造性

大項目	小項目
1 済生会福祉のブランド力確立のための質の向上	①理念・基本方針、支援内容の具現化による支援の質の向上 ②利用者を支える療育・保育・支援の質の標準化 ③福祉の専門職としての知識・技術・感性のブラッシュアップ ④利用者・家族・関係機関の満足度向上 ⑤地域包括ケアの中核を担う人材の育成
2 地域社会、家族との連携・協働	①施設の機能を活かした取組を継続的に地域に発信 ②医療、介護、福祉との連携による地域共生社会の実現 ③ホームページや広報誌による積極的な情報発信 ④家族参加型の行事・活動による信頼関係の構築 ⑤実習生・ボランティアの積極的受け入れによる開かれた施設運営
3 福祉サービス収益の安定を図るための業務プロセスの見直し	①事業所毎の収支分析による安定した運営 ②利用者確保と利用率アップのための支援の充実 ③お互いを尊重した人間関係、風通しの良い温かい職場の構築 ④2021年度報酬改定への対応検討 ⑤業務の見直しを行い、分業化、ICT化による業務の効率化

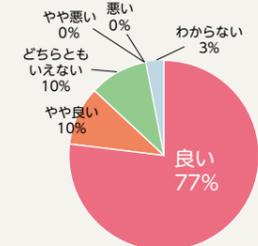
## 2019年度 満足度アンケート集計結果

～福祉センター「利用者及び保護者満足度調査」集計結果より～  
2019.10月実施

福祉センターを利用されている方を対象に、毎年事業所ごとに『利用者及び保護者満足度調査』を行っています。◎雰囲気や環境・安全管理面について◎職員の態度・対応◎行事活動◎給与や工賃についてなど、7項目のアンケートへの回答と多くのご意見・ご要望をいただきありがとうございました。今回は399名の方から回答をいただきました。

### 済生会かがやき

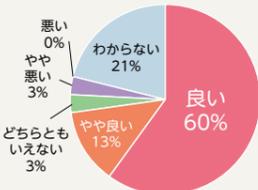
利用者 (39名回答)



2019年度はA型9名、B型26名、就労移行4名の計39名が回答されました。全体評価では約8割の方が「良い」と評価し、前年度と比べて11%ほど増えております。項目ごとに見ると「職員の態度、対応について」は9割以上が「良い」「やや良い」であり、日々の関わり方を高く評価して頂きました。引き続き、利用者へ寄り添う態度、対応を意識して支援へ取り組んでまいります。一方で、「工賃、給料について」では工賃に満足している方、もう少し欲しい方の両方がいらっしゃいました。事業所として工賃向上へ取り組むとともに、工賃の仕組みを利用者の皆さんへ説明をする機会を設け、満足度向上を図ってまいります。併せて、今年度受審した第三者評価の結果に対しても真摯に受け止め、よりよい事業所づくりを目指します。

### 済生会ほほえみ

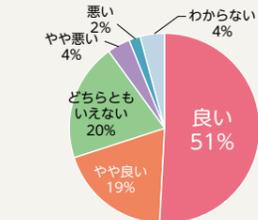
利用者 (38名回答)



2019年度はB型9名、生活介護29名の計38名が回答されました。総合評価では、「良い」が昨年より11%増の60%、「やや良い」が8%減の13%という結果でした。「ほほえみはすき」「楽しい」という嬉しいご意見や、毎日運動をしたいといったご希望、人間関係での悩みなどのご意見がありました。ほほえみでは毎年、利用者ご本人にアンケートを行っています。[わからない・未回答]の方が21%と他事業所と比べて多くなっております。言葉で表現することが難しい方の気持ちに寄り添いながら、今後も満足度を高めていけるような支援を行っていききたいと思います。

### 済生会ウイズ

利用者 (51名回答)

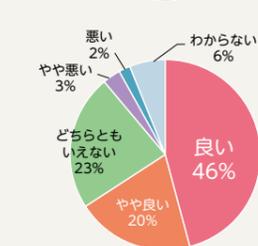


2019年度は総合点で昨年度よりも「良い」「やや良い」が16%減少し、「普通」が16%増加しています。日常が当たり前となり、慣れてきたことで、満足を感じにくくなってきたと考えられます。

個別項目では、仕事内容よりも人間関係に悩んでいたり、職員とのコミュニケーションに不満があったり等の意見が散見され、利用者としてゆとり話時間を作りたいと思います。

### 済生会グループホーム事業所

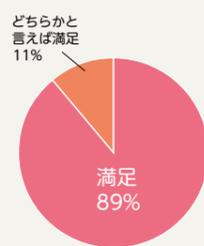
利用者 (87名回答)



総合評価の「良い」「やや良い」は66%でした。項目別に見ると、「職員の態度・対応について」の項目は「良い」「やや良い」が71%でした。「言葉使いが気になる」「もっと話をきいてほしい」という意見でした。接遇標語を掲示し意識向上に努めています。また、毎月、日常会話、記録からも苦情・要望を拾い上げ、迅速な集計、分析を行い問題解決に取り組んでいます。「グループホームでの人間関係」は「良い」「やや良い」が58%と他の項目より評価が低く、「利用者間のトラブルで関係が悪い」や「共同生活での不満」等があげられています。それぞれのホームで、定期的に利用者会議を開き、お互いに気持ちよく生活できるように職員一同改善に努めていきます。

### 済生会なでしこ園

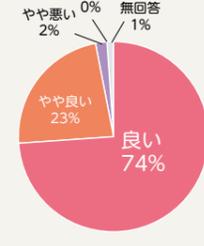
保護者 (28名回答)



2019年度から児童発達支援ガイドラインに示された調査項目に沿った内容に変更しました。療育支援や職員対応、安全管理等9つの項目に対して満足度を調査しましたが、総合評価では前年度に比べ、「満足」が25%増加しており、「どちらかと言えは満足」をあわせると回答者の全員が概ね満足という結果になりました。しかし、回答率(80%弱)のアップに向け、今後は具体的な方策を講じる必要があります。また、自由記述では、より家族支援(心理的・社会的支援)に対するニーズが明らかになったことから、数値的な評価に甘んじることなく、今後も保護者の多様なニーズに丁寧に対応していききたいと思います。

### 済生会しらふじ子ども園

保護者 (95名回答)

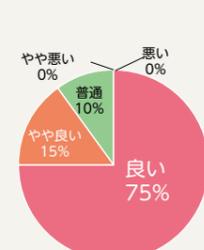


2019年度は子ども園になって、2年目ということもあり昨年の反省を踏まえ取り組んできました。連絡メールや掲示板、座談会やその他の行事で、しらふじ子ども園の教育・保育について保護者へ向けて発信した結果、保護者への周知も随分できたのではないかと思います。

まだ、しらふじ子ども園を知ってもらうということが十分にできていないので、ホームページ等で利用者以外にも発信していこうと思います。

### 済生会熊本福祉相談支援センター

利用者 (61名回答)



ご契約者の中から100名の方に郵送にてアンケート調査を行い、61名の方からご回答を頂きました。総合評価は9割の方が「良い」「やや良い」、残りの1割の方が「普通」という回答でした。相談対応については「満足している」というご意見も頂きましたが、「困り事を気にかけて欲しい」「提示した情報はすぐに連絡して欲しい」、また情報提供については、「選択の幅を広げて欲しい」「将来の利用できる制度や施設を教えてください」などのご意見もありました。今後もアンケートで頂いたご意見を活かし、相談支援のスキル向上及び必要な制度や社会資源の知識の向上に努めていきたいと思います。

**おしらせ**  
3月・4月・5月の出来事

#### ★ 済生会なでしこ園

3月31日(火) 卒園式

#### ★ 済生会熊本福祉センター

4月26日(日) 第19回くまもと障害者スポーツ大会  
水泳競技、フライングディスク

5月24日(日) ボウリング競技、陸上、卓球

#### ★ 済生会しらふじ子ども園

3月 2日(月) ひなまつり会

3月 3日(火) お別れ遠足

3月11日(水) お別れ会

3月13日(金) 人形劇

3月21日(土) 卒園式

4月 4日(土) 入園式  
4月23日(木) 内科健診



## 第三者評価受審

済生会かがやき

済生会かがやきでは、2019年11月29日に2回目の第三者評価を受審しました。受審にあたり、前回の評価を見直し、課題となった点を事業計画に取り上げてPDCAを回しながら改善に向けて準備をしてきました。今回の受審では、特に①法人の中期事業計画が事業所の単年度事業計画の中に明示されており、事業所の部会体制により事業計画に沿って実践し、成果に繋がっている点、②人事考課制度が整備され、人材の育成が行なわれている点、③「利用者自治会」等の利用者の自立を支援する仕組みがあり、利用者ファーストである点を評価して頂きました。今後は、課題改善への取り組みを行ないながら、更に利用者さんへのサービスの質向上に努めていきたいと思っております。



## ライオンズカップ駅伝大会



2月15日(土) 熊本中央ライオンズカップ駅伝大会に選手15名で参加しました。当日は小雨での開催となりましたが、福祉センターからは女子1チーム、男性2チームの精鋭で挑みました。その結果、なんと女子チームは区間賞を含む女子の部優勝、男性チームも全員完走し立派な成績を残しました。選手からは「また来年も頑張ります！」と頼もしい声が聞こえてきました。



## 女子ハンドボール世界選手権大会



済生会ほほえみ

パン工房ふわりでは、2019年12月11日(水)に女子ハンドボール世界選手権大会(アクアドームくまもと会場)の販売会に参加してきました。

大会の様子が世界中に配信されるということで、販売時間も11時~22時30分までと長丁場でしたが、様々な国の方たちと触れ合い特別な経験ができました。もちろんパンは完売!当日は特別に熊本名物のいきなり団子をイメージした“いきなり芋あんぱん”を販売し、大好評でした。



## ウイズA型日中活動新年会

済生会ウイズ

1月19日(日)にウイズA型の日中活動と新年会を行いました。日中活動のボウリングでは、連続でストライクを狙っている方やカーブボールを駆使して着実にスコアを上げていく方など、様々に楽しみわいわいと賑やかな時間となりました。また熊本市街地散策では、行動班毎に希望の場所に行き、それぞれに過ごされていました。

夕方の新年会では、実行委員のもと、会が進行されボウリング大会の上位得点者の発表、担当職員からのプレゼント渡しやじゃんけん大会などで盛り上がりました!

仕事とはまた違う一面が見え、交流を深められた活動となりました、2020年最初のいいスタートとなりました。



## たのしい発表会

済生会しらふじ子ども園

1月18日(土)に、アスパル富合で2歳以上児を対象に「第16回たのしい発表会」を行いました。広いステージ上から、お客さんを目の前にして、緊張してしまうお友だちもいたり、お家の人を見つけて「ママ〜!」と笑顔で手を振るお友だちもいたり、いろいろな表情が見られました。

また、遊戯や劇では、いろんな衣装を着て、なりきって発表する姿や、メロディオン演奏や合奏では指揮者の先生の方を真剣に見て演奏する姿など、それぞれに成長した姿を披露してくれ、たくさんの拍手をもらいました。



## 地域の方々との交流会

済生会なでしこ園

2019年度から始まった3クラス合同で行うお集まりの『なかよしタイム』。12月24日のなかよしタイムには、白藤の自治会長と地域のハーモニカサークルの方々をお招きしました。地域の方々からは、お面とハーモニカ演奏のサプライズプレゼントがあり、「ジングルベル」や「むすんでひらいて」、「雪」の曲に子どもたちも笑顔で歌ったり、手遊びをして楽しみました。子ども達からはお礼として、しおりをプレゼントし喜んでいただきました。

初めての交流会でしたが、地域の方々にもなでしこ園を知ってもらい、子ども達と関わってもらえる良い機会になりました。



## 非常用発電装置導入

グループホームうちだ1番館

グループホームうちだ1番館の裏に、LPガスを使用した非常用発電装置を導入しました。熊本市の施設整備費補助金を活用させて頂きました。この装置は、災害などの非常時にうちだ1番館1階の厨房や食堂、利用者の居室、上水道ポンプ室に電気を供給するものです。これにより停電でも、電気、水道の確保ができ、3日程度持続可能となります。ガスを補充することで、更に長期間使うこともできます。

うちだ1番館・2番館のグループホームでは、約30名の方が生活をされています。

さらにうちだ1番館は、地震などの大規模災害時には、地域のグループホーム利用者の受け入れ避難所となっています。いざという時のために備えることができ、日頃から安心して過ごせそうです。



## フェンス設置

内田施設



内田施設の北側及び東側の一部にフェンスを設置しました。用水路と隣接しているため、転落防止対策をすることで、利用者さんたちの安全面を更に充実させるためです。福祉センターでは安全衛生委員会を中心に、施設の定期巡回をして安全面の点検と改善活動を継続して実施しています。利用者さんと職員も、お互い安心して過ごせるようにしたいですね!

発行所  
済生会熊本福祉センター  
発行責任者 道端 由美子  
編集 広報委員会  
熊本市南区内田町3560-1  
TEL 096-223-3330  
FAX 096-223-3429  
http://www.sk-fukushi.jp/